

中学校 国語A



文学的な文章を読む問題では、宮沢賢治「風の又三郎」から出題されました。

- 3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。
- 一 線部①「どてをぐるっとまわって、どんどん正門をはいって来ると」とありますが、ここでの表現の工夫として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 擬態語が用いられている。
 - 2 倒置法が用いられている。
 - 3 体言止めが用いられている。
 - 4 直喩が用いられている。
- 二 線部②「一人も返事をしたものがありませんでした」とありますが、その理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 みんなが騒がしく遊んでいたので、「お早う。」と挨拶をした三郎の声がよく聞き取れなかったから。
 - 2 先生でもないのに「お早う。」と挨拶をした三郎の態度が、偉そうに思えて気に入らなかったから。
 - 3 先に「お早う。」と挨拶をする心づもりでいたのに、三郎に先を越されてたじろいってしまったから。
 - 4 友達同士ではしたことがない「お早う。」という挨拶を三郎にされて、気おくれしてしまったから。
- 三 本文中の□□で囲まれた部分から、嘉助のどのような様子が読み取れますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。
- 1 「風の又三郎」の吹かせた風が弱くてがっかりしている様子。
 - 2 転校生が「風の又三郎」だと確信して興奮している様子。
 - 3 三郎の行動の意味が分からず腹を立てている様子。
 - 4 三郎を仲間にすることができて喜んでいる様子。

出題の趣旨

- 設問一 表現の技法について理解しているかどうかをみる。
- 設問二 登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解しているかどうかをみる。
- 設問三 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解しているかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

- 設問一 〔第1学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
(1) イ(オ) 比喩や反復などの表現の技法について理解すること。
- 設問二 〔第1学年〕 C 読むこと
(1) ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。《文章の解釈》
- 設問三 〔第2学年〕 C 読むこと
(1) イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。《文章の解釈》

宮沢賢治の作品は、平成21年度のA問題において「銀河鉄道の夜」が出題されました。さらに、「やまなし」(光村図書)「注文の多い料理店」(東京書籍)など小学校の教科書でも取り上げられています。



学習指導に当たって大切なこと

- (1) 表現の技法について理解する。
- 比喩や反復などの表現の技法を理解する際には、小学校での学習(自分の表現に活用させる指導)を踏まえた上で、文章中の具体的な表現に即して、表現の技法の名称を確認するとともにその効果について考える。
 - 多様な表現の技法について、体系的に整理する。
- (2) 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。
- 登場人物の心情や行動に注意して読み進める。
 - 登場人物の言動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方などに、どのように関わっているかを考える。
 - 登場人物の言動を表す描写に着目し、他の叙述や場面の展開を根拠としながら、言動に込められた心情に対する考えを述べ合う。



教師が教材分析した内容を、講義形式で教えたのでは、読む力は身に付きません。物語の中で重要だと思われる言動を引用して作品を紹介する学習活動や、音読や朗読を取り入れた学習活動など「単元を貫く言語活動」を設定し、生徒主体の授業にすることが大切です。さらに、「定着確認シート」を活用することも有効です。また、並行読書を取り入れ、様々な作品に親しませてください。